

3	率先性	すべきことを認識し、それを達成するために自ら行動を起こす能力	2					1	3
4	対人関係能力	他人と効果的にやりとりする能力	1					2	3
5	チャレンジ願望	困難な任務や目標に立ち向かおうとする能力	1						1
6	自己確知	自分の感情や衝動、無意識の欲求などを把握し、受け入れる能力					6		6
7	状況対応力	体制が整っていない状況でも仕事していこうとする能力		1		4			5
8	問題分析性	問題や決定を分析する能力		3					3
9	自己改善性	自己を発展させ向上させようとする能力					3		3
10	多視熟考性	多種多様な見方についてよく考える能力		2					2
11	論理性	事実や問題を論理的に検討する能力		2					2
12	洞察力	物事を直感や分析力で見抜く能力			2				2
13	他人支援性	他人の要望に応えたり、人が目標に到達できるようにサポートする能力				2			2
14	規則遵守性	規則、日程、手順などを遵守する能力				1			1
15	交渉力	合意の取り付けのために効率的な話し合いや取引の交渉を行う能力				1			1
16	対立処理能力	不一致や対立を効果的に処理する能力				1			1

17	直感性	決定を行う際に「勘」を活用する能力				1			1
18	熱意	目標に向かっていく情熱を持ち、自ら興奮する能力				1			1
19	自己主張性	自分の欲求や要求を強く前面に出す能力						3	3
20	共感性	他人に対して好意や共感を示す能力						3	3
21	協調性	他人と協力して働く能力						2	2
22	説得性	他人を納得させることを楽しむ能力						2	2
23	ストレス管理	ストレス解消能力、ストレス耐性、仕事に安らぎや落ち着きを感じる能力						1	1
24	創造的思考性	新しいことを試みたり、新しい方法でものごとを行ってみる能力						1	1
	総計		7	8	4	12	9	17	57

*) 分類B及びGはスキル（技能や知識）項目のみで構成されているため、この表では対象外とした。

**）ここでの定義は一般的なものであり、社会福祉士に合ったものに変える必要がある。

6 とりまとめ結果の考察（コンピテンシー（案））

現時点では、案の段階のため重要度が3以上の特性にのみ着目し、その特徴について考察することにする。

- I 社会福祉士になる実習生として必要な基本的能力:多くの場面に亘って必要な能力（目的志向、協働志向、率先性、対人関係能力）自分の目標を明確に持ち、その目的への貢献度に対し動機付けできることが重要であると考えられる。

- II 実習の活動場面において必要な能力（自己覚知、状況対応力、問題分析性、自己改善性）：実習生がクライアントを支援するにあたり、相手を受け入れるのみでなく、自分の性格を理解し、自分自身も受け入れた上で、状況に応じた対応が取れることが大切であると考えられる。また、そういった行動が自己の改善につながるものと思われる。
- III 実習生として最低限必要なコミュニケーションに関する能力（自己主張性、共感性）：コミュニケーションにおいて、相手に優しさや思いやりを持ちつつ、自分の意見をはっきり言うことが大切であると考えられる。これは上記の自己覚知にも通ずるものである。

7 コンピテンシーに基づく評価モデル

特定したコンピテンシーを基に、今後、下記に示すようなコンピテンシー型評価モデルの構築を行う予定である。

(1) コンピテンシー・ディクショナリーの作成（例）

A) 社会福祉士になる実習生として必要な基本的特性

- ・目的志向：社会に役立つことをするという目的によって駆り立てられる意欲

「日々の実習において目的意識を明確に持って取り組んでいる」

- 5: 常に見られる
- 4: よく見られる
- 3: 時々見られる
- 2: まれに見られる
- 1: ほとんど見られない

- ・協働志向：意思決定に際し、他人と協働する能力

「問題解決の場面でチームメンバーの意見も聞きながら、意思決定している」

- 5: 常に見られる
- 4: よく見られる
- 3: 時々見られる
- 2: まれに見られる
- 1: ほとんど見られない

(2) 評価結果のグラフ化

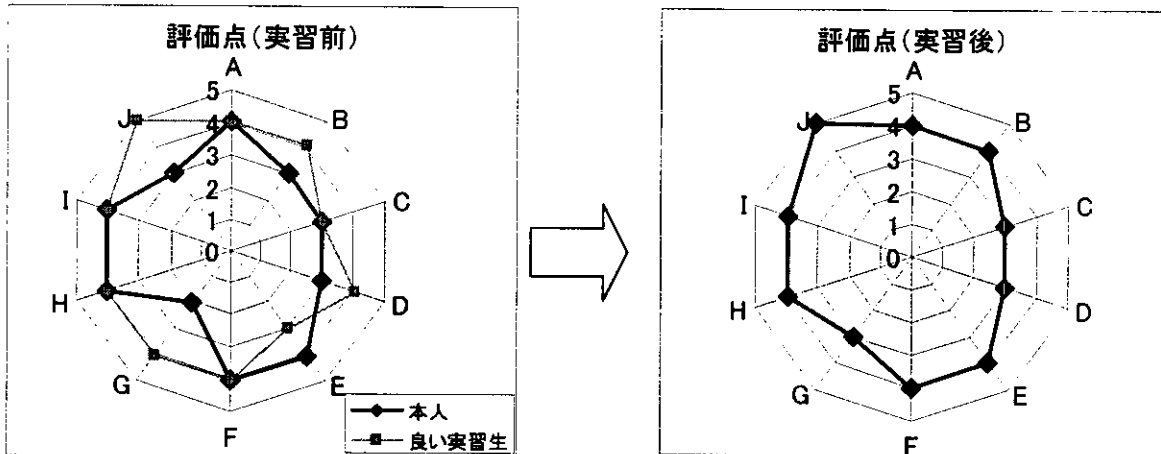


図 6 コンピテンシー型評価モデル

図 7 評価結果のスコア化による認識(例)

図6のように、実習生自身と他の実習生（できれば良い実習生＝ハイパーフォーマーである実習生）とを比較して自分の強み弱みを把握できるため、実習に臨むにあたっての目標設定を明確にすることができる。

また、本人以外に、大学の教員や実習施設の指導者による評価も追加することで、自己評価と他者評価のギャップを認識でき、より公平な評価を行うことが可能となる。

8 コンピテンシー型評価モデルにより期待される効果

・評価の妥当性

実際により成績をあげている実習生の行動を基準とし評価項目を決定しているため、学生が自分自身の実習前後の能力を評価する基準として、ハイレベルを目指すことが可能となり、高い確率で成果をあげることが期待できる。

また、過去の評価結果から、次年度の評価項目や基準を見直すことで、妥当性の高い評価モデルを構築することができる。

・評価の信頼性

評価の基準や設問が実際の場面を想定した表現となるため、評価を同一の尺度で実施することができる。また、社会福祉士養成校全体の比較、養成校内における実習評価の比較が可能となり、社会福祉士養成校全体の実習の質の向上を目指すための基礎資料となり、各養成校で個別に行っている評価を総合的に捉えることにより、社会福祉士養成校全体の

実習評価が可能となる。

・評価の透明性

評価を受けたものにとってその評価結果と根拠が明確となり、結果を正しく捕らえることができる。

9 次年度における課題とその方向性の提案

次年度以降の研究計画は、以下の通りである。

- ① 今年度作成したコンピテンシー・ディクショナリー素案を班会議において再度検討し、コンピテンシー・ディクショナリー案とする。
- ② コンピテンシー・ディクショナリー案によるプリサーベイを、社会福祉士養成校の学生に実施し、調査項目についての記述しやすさ、理解しやすさ、項目そのものの妥当性等について調査する。
- ③ 社会福祉士養成校協会会員校に配布し、意見を徴収する。
- ④ 調査結果を分析し、コンピテンシー・ディクショナリーを再度作成する。
- ④ コンピテンシー・ディクショナリーをコンピュータ・ソフト化する。

(東洋大学 藤林慶子)

¹原井新介、「キャリアコンピテンシーマネジメント」、日本経団連出版、平成14年、pp107-109.

<参考文献>

- 1) Kiera O'hagan, Competence in Social Work Practice. Jessica Kingsley Publishers, 1996.
- 2) ライル M. スペンサー, シグネ M. スペンサー, 「コンピテンシー・マネジメントの展開」、生産性出版、2001.
- 3) アントワネット・D・ルシア, リチャード・レブシンガー, 「実戦コンピテンシーモデル」、日経BP社、2002.
- 4) 古川久敬監修, 「コンピテンシーラーニング」、日本能率協会マネジメントセンター、2002.
- 5) 太田隆次, 「コンピテンシー実務ハンドブック」、日本法令、2002.
- 6) アーサーアンダーセン ヒューマンキャピタル・サービス, 「戦略的コンピテンシーマネジメント」、生産性出版、2000.

-
- 7) ハイコンサルティンググループ、「正しいコンピテンシーの使い方」、PHP 研究所、2001.
 - 8) アンダーセン、「図解コンピテンシーマネジメント」、東洋経済新報社、2002.
 - 9) コンピテンシーに基づく病院人事賃金の革新」、病院コンピテンシー研究会、経営書院、2000.
 - 10) 太田隆次、「アメリカを救った人事革命 コンピテンシー」、経営書院、1999.
 - 11) ネビル・ベイン、ビル・メイビー、「人材価値評価ーコンピテンシー重視人事の実践」、東洋経済新報社、2001.
 - 12) マイケル・スウェル、「コンピテンシー企業革命」、東洋経済新報社、2001.
 - 13) 日本社会福祉士会実習指導者養成研究会、「実習指導者養成研修プログラム基盤構築事業 2001 年度研究事業報告書」、日本社会福祉士会、2002.

第2章 資 料

社会福祉援助技術現場実習における 学生のコンピテンシー・ディクショナリー 素 案

		No	資料	資料内 No	よい社会福祉士実習生に必要な能力	施設	特性名	重要 度
A (社会福祉士としての基本的能力)	スキル(技能、知識)	1	FG	4	ソーシャルワークの価値を理解している (価値観・倫理観をきちんと持っている)			
			FG	5	(価値観・倫理観が実習計画書に現れている)			
		2	FG	21	あいさつができる			
			FG	27	挨拶の仕方が適切である			
			BEI	56	あいさつの仕方などを身につけることが必要			
		3	FG	26	電話のかけ方が適切である			
		4	FG	28	敬語の使い方が適切である			
		5	FG	30	服装が適切である			
		6	FG	56	常識的態度をとることができる			
		7	FG	9	実習前の実習先施設等についての情報収集ができる			
		8	BEI	69	精神的な強さが必要。			
		9	BEI	69	体調の自己管理も求められる。			
		10	BEI	11	最低限の家事、掃除の意識			
	11	価値	8	守秘義務を守る	事務所			
	12	価値	17	利用者の個性を尊重する	障害			
	13	価値	18	個性の尊重ができる	知的			
	(行動能力)	コンピテンシー	14	FG	7	自分で動くことができる		率先性
FG				58	積極性がある		率先性	
15			BEI	53	失敗を恐れず、それを成果につなげる力が大切		チャレンジ願望	
16			FG	10	モチベーションがある		目的志向	3
			FG	52	目的意識が明確である		目的志向	
	BEI	47	目的意識を持って実習に望んでいること		目的志向			
	17	価値	16	個々の利用者に応じた接し方をする	児童	対人関係能力		
施設 実習	スキル	18	FG	8	施設等のイメージを持つことができる			
			FG	48	施設の全体像を把握できる			
		19	技術	30	施設内外の関連するシステムについて把握する	特養		
C (問題認識)	(行動能力)	20	FG	41	客観的、主観的な捉え方ができる		多視熟考性	2
			BEI	22	周囲を見られる人。そういう気持ちの余裕のある人。		多視熟考性	
		21	FG	47	抽象的な概念を具体的にとらえることができる		論理性	2
			FG	59	具体的な表現ができる		論理性	
		22	BEI	24	TPOが原則的に備わっている。		状況対応力	
		23	技術	20	対象領域に関する資料を読み、分析をする力を持っている	知的	問題分析性	3
技術	21		課題分析ができる	知的	問題分析性			
	技術	22	子どもを通して背景にある家族の問題を捉える	児相	問題分析性			
D (計画)	(行動能力)	24	FG	14	実習についてのニーズがはっきりしている		目的志向	2
			FG	15	実習についての理由付けができる		目的志向	
		25	BEI	42	自分なりの問題意識を持ち、それを実習中の各種体験を通じて深めていく力。これは明確でなく、直感的なレベルでもかまわない。		洞察力	2
			技術	81	ある出来事の因果関係と結果を予測できる能力。		洞察力	

		No	資料	資料内 No	よい社会福祉士実習生に必要な能力	施設	特性名	重要 度
E (実行)	コンピテンシー (行動能力)	26	FG	20	調整能力(対職員、対利用者、対実習生)がある		交渉力	
		27	価値	22	チームアプローチの視点を持っている	障害	協働志向	
		28	FG	24	その場にふさわしい対応ができる		状況対応力	3
			FG	46	その場の空気を読むことができる		状況対応力	
			FG	25	状況を的確に把握できる		状況対応力	
		29	FG	44	気が利く		他人支援性	2
			FG	45	フットワークがよい		他人支援性	
		30	FG	50	課題を期日までに提出することができる		規則遵守性	
		31	BEI	20	物事に真摯な取り組みが出来る。		熱意	
		32	BEI	21	頭で勝負よりも、動いて考える。		直感性	
33	BEI	45	葛藤を伴ったとしても、現実の体験を処理(伝える、考える、自らの言動を変える)することのできる能力。		対立処理能力			
34	BEI	84	積極的なことは良いのだが、職員の計画などを無視して一人で走り過ぎてしまうのは困る。周囲を見て行動する大切さが必要。		状況対応力			
F (評価)	コンピテンシー (行動能力)	35	FG	36	自分の弱さを把握している		自己確知	6
			FG	37	自分のコンプレックスを把握している		自己確知	
			FG	38	自己評価が適切である		自己確知	
			FG	61	自己覚知ができています		自己確知	
			BEI	31	自分への気付きを持てる。		自己確知	
		技術	35	観察介入を踏まえ、自己洞察ができる(自らを振り返って自己評価する)	児相	自己確知		
		36	BEI	43	体験を自分なりに受け止める感受性が豊かであり、その体験を解釈し自らの行動につなげていくことのできる能力。		自己改善性	3
			BEI	54	失敗をしてもそこから学ぶことができること		自己改善性	
			BEI	77	自分が学んできたこと、実際に現場で起こることのギャップについてそのギャップに気づいた自分を大切にしながら、そのケースについて、自由に自分の枠を広げられること		自己改善性	
G (書く技能)	(技能、知識)	37	FG	16	文章表現能力がある	在介		
			FG	39	自分の考えを表出させて文章が書ける	在介		
			FG	40	実習日誌に事実の羅列以外のことが書ける	在介		
		技術	27	実習ノートに、自分が最も書きたいことを、自分の言葉で表現できる	在介			
		38	技術	26	記録情報管理能力がある	知的		
		39	技術	28	観察介入を踏まえた記録が書ける	児相		
40	FG	23	メモを適切にとることができる					
	BEI	50	状況に応じてメモをとり、同じことを何度も繰り返さないよう積極的に取り組む姿勢が大切					

	No	資料	資料内 No	よい社会福祉士実習生に必要な能力	施設	特性名	重要 度
H (話す 技術)	41	FG	1	明るい			
		FG	2	はきはきしている			
		BEI	2	聞く力、謙虚さ			
		BEI	7	優しい			
		BEI	36	性格が素直			
		BEI	58	作り笑いではない自然な笑顔、明るさ。			
	42	BEI	5	考えて人に伝えられる力、言葉にする力			
	43	BEI	52	一日の実習をしっかり反省、感想、指導を受けたこと、疑問点と区分けしてまとめられる能力			
	44	BEI	13	ユーモア			
	45	BEI	48	報告、連絡、相談が身についていること			
	46	技術	1	利用者に面接する	児童		
	47	技術	2	傾聴できる	知的		
	48	技術	3	家族と面接する	児童		
	49	技術	4	効果的なコミュニケーションができる技術がある	障害		
		技術	5	インタビュー技術を持っている	社協		
		技術	6	インタビュー技術の習得	事務所		
		技術	7	コミュニケーション技術を持っている	社協		
		技術	8	利用者とのコミュニケーションがうまくとれる	児相		
		技術	10	利用者との関係について理解した上でコミュニケーションをとる	児童		
	50	技術	12	利用者を観察する	児童		
		技術	13	利用者を観察できる技術がある	障害		
		技術	14	利用者子どもを観察し、個々の特徴を捉える	児相		
		技術	15	アセスメントができる技術がある	障害		
	51	FG	42	記録を自己完結させない		協働志向	2
		BEI	64	独り善がりにならない。別の視点で見る。		協働志向	
	52	BEI	4	考える力		創造的思考性	
	53	FG	54	人に伝える能力がある		説得性	2
		BEI	6	意思表示をきちんとできる(困ったことも伝えられる)		説得性	
	54	BEI	14	自己アピールの強い人、遠慮しない人、印象づける人、リアクションのとれる人		自己主張性	3
		BEI	46	自分の思いを鮮明に出せること。		自己主張性	
		FG	51	自己表現ができる		自己主張性	
	55	BEI	19	協調性がない人は困る。いつも自分の主張が多く、他者が見られない。職員も同様の面がある。		協調性	2
		BEI	15	自分の苦手な人を避けたりしない(人とかかわる上で、どういう人の前で緊張するか、リラックスできるかを体験上分かっている)		協調性	
	56	BEI	33	「自分をそのまま出してみよう」と伝え、積極的になれ		率先性	
	57	BEI	40	対人関係を持てる社会性のある人(社会経験のある学生は安心)		対人関係能力	2
		FG	55	援助者として意図的なコミュニケーションができる		対人関係能力	
	58	BEI	62	言葉にでない相手の気持ちを気づく能力(特養は痴呆や言語障害などにより言語でコミュニケーションとりにくい利用者がふえている。)		共感性	3
		BEI	63	言葉に出ないニーズに気づく(言葉として訴えるものより、言葉に出ないニーズの方が多い)		共感性	
		BEI	67	相手の話を聞ける、そして相手を理解する能力。相手の言いたいことを受け止められる能力。相手の側に立つことのできる能力		共感性	
	59	BEI	23	その人自身のゆとり(息抜きができる)がある。		ストレス管理	

スキル(技能、知識など)的項目
 コンピテンシー(行動能力)的項目
 BEI 施設へのインタビュー結果
 FG フォーカスグループの整理結果

	特性		A	C	D	E	F	H	総計
1	チャレンジ願望	困難な任務や目標に立ち向かおうとする傾向	1						1
2	自己確知						6		6
3	状況対応力	体制が整っていない状況でも仕事していこうとする能力的傾向		1		4			5
4	問題分析性	問題や決定を分析する傾向		3					3
5	自己改善性	自己を發展させ向上させようとする傾向					3		3
6	多視熟考性	多種多様な見方についてよく考える傾向		2					2
7	論理性	事実や問題を論理的に検討する傾向		2					2
8	洞察力				2				2
9	他人支援性	他人の要望に応えたり、人が目標に到達できるようにサポートする傾向				2			2
10	規則遵守性	規則、日程、手順などを遵守する傾向				1			1
11	交渉力	合意の取り付けのために効率的な話し合いや取引の交渉を行う能力的傾向				1			1
12	対立処理能力	不一致や対立を効果的に処理する傾向				1			1
13	直感性	決定を行う際に「勘」を活用する傾向				1			1
14	熱意	傾向				1			1
15	自己主張性	自分の欲求や要求を強く前面に出す傾向						3	3
16	共感性	他人に対して好意や共感を示す傾向						3	3
17	協調性	他人と協力して働く傾向						2	2
18	説得性	他人を納得させることを楽しむ傾向						2	2
19	ストレス管理	ストレス解消能力、ストレス耐性、仕事中に安らぎや落ち着きを感じる傾向						1	1
20	創造的思考性	新しいことを試みたり、新しい方法でものこを行ってみる傾向						1	1
21	目的志向	社会に役立つことをするという目的によって意欲を駆り立てられる傾向	3		2				5
22	協働志向	意思決定に際して、他人と協働する傾向				1		2	3
23	率先性	すべきことを認識し、それを達成するために自ら行動を起こす傾向	2					1	3
24	対人関係能力	他人と効果的にやりとりする能力的傾向	1					2	3
	総計		7	8	4	12	9	17	57

第2章 補足資料1

A. ソーシャルワークの専門家として役割

1. 機関のソーシャルワークの役割を理解し実行する
2. 実践場面に影響を与える専門職の価値観について、事故の価値観も含め、考慮する
3. 他の職員やクライアント集団（例えば、ステークホルダー、消費者）と関わる際、多様な文化的規範、価値観、倫理及びモラルを尊重する
4. 自分自身の行動が専門ソーシャルワークの価値観や倫理と一致している
5. 他の職員や援助者と協働する
6. クライアントや他の専門家と、文化的背景を踏まえた、専門的対人関係を形成する
7. 自他の言語的、非言語的相互作用を正確にアセスメントするために、多様な文化をよく知る
8. クライアント・システム、機関、専門職に責任を持つ
9. 機関の構造と期待される役割を考慮しつつ、専門職としてのあらゆる面に主体性と責任をもつ
10. 守秘義務を果たす

B. 実習機関で働くソーシャルワーカーとしての役割

1. 組織の目的、方針、機能を説明する
2. 施設・機関の財源を理解する
3. 当該組織においてサービスを受けることのできる要件を明らかにし、分析する
4. 組織内の適切なコミュニケーションネットワークを組織図等で認識し、活用する
5. 機関のサービスの供給に影響する他の施策やプログラムを認識する

C. コミュニティの中で活動するソーシャルワーカーとしての役割

1. 社会的属性や歴史的背景に応じた、そのコミュニティの地理的、物理的、社会的、文化的、経済的、歴史的環境を含んだ主な特徴を認識する
4. サービス供給にフォーマルなコミュニティ資源を理解する
5. サービス供給にインフォーマルなコミュニティ資源を利用する（経験豊かな年長者、自助グループ、近隣ネットワーク等の公的に組織されていない資源）

D. 問題の認識とアセスメント

1. 問題が現れている社会経済的、政治的、制度的背景や問題に関係する全ての人々を認識し、それらが問題にどのように影響を与えているかを理解する
2. 問題に直接／間接に関わりのある資源から関連する情報を収集する
3. 問題をいろいろな人の視点から把握する
4. 問題が起きている状況と那些人々の行動を観察する
5. 問題が現れている社会的、制度的、文化的、民族的背景を認識し、それらがどのように問題に影響を与えているのかを理解する
6. 実行可能で文化的に受け入れられる解釈と効果を記述し、考える
7. 明確な知識によって集められたデータに基づいて、観察した事柄を問題を解釈する
8. 新たなデータあるいは変更されたデータを得たときに、問題を整理し、再構築する
9. 自分なりに問題をアセスメントし、データをまとめる
10. 可能なときに新たな選択肢を取り入れることができる

E. 計画

1. ソーシャルワークの各種の実践アプローチを理解する
2. 特定の実践モデルに基づいた適切な介入計画を作成する
3. 個人や集団、地域のそれぞれの問題を明らかにし、達成すべき目標と結果を明確化する
5. 問題の解決のために、改善すべき対象を明らかにする
6. 重要性と実行可能性によって援助活動を順序づける
7. 適切なフォーマル、インフォーマルな社会資源となる人々と相談する
8. 問題を解決するのに必要な資源を明らかにする
9. 選択された方針の理由を明らかにすること、実践に用いられる活動、あるいは方策を記述する

F. 介入／実行（ミクロ）

1. 明確な実践アプローチに基づいて介入を実行する
2. 民族的、反差別的な視点に応じて、必要であれば実践を修正し、変更することができる
3. その問題を理解し解決することに関わる人々のお互いの合意（契約）を発展させる
4. 問題の解決のために必要な、フォーマル、インフォーマルな社会資源を見出し、それを調整する
5. 適切な場面で、クライアント、組織、コミュニティと資源とをつなげていく
6. サービス提供を促進するために、クライアント／団体／コミュニティの代弁をする
7. （文化、宗教、バイセクシャル、ホモセクシャル等の）多様性を尊重する目的のある人間関係を維持する
8. クライアント・システムや実践の場のニーズに応じて異なる自己活用をする
9. 組織の方針や手続きに柔軟に対応する
10. 計画どおりの成果をあげるために様々な技術や役割を活用する
11. 実行の過程の中で、適切な時間配分をし、それを利用する
12. 個人差や個人の選択の違いを考慮しながら、意思決定や目標達成の際に関係者の自立を促す
13. 計画を実行する際に、問題の焦点や目標を維持する
14. 改善を妨げている個人的、対人的、組織的、制度的に障害を明確化し、退所する
15. 目標達成やその進展に関するクライアント・システムあるいはその参加者からフィードバックを引き出す
16. 契約を再調整したり、介入の方法を変更するために、フィードバックを活用する
17. 必要に応じて他機関を利用させたり、他機関へ紹介したり、終了したりする

G. 介入の評価とフィードバックの活用（ミクロ）

1. 多様な人々との専門的実践の側面を考慮し、現場の実習指導者や他の職員たちからのフィードバックを求める
2. 現場の実習指導者や他の職員からのフィードバックを活用する
3. 最大の学習効果を得るために、現場の実習指導者の指導スタイルやその方法のフィードバックの要求に応じる
4. 学習の必要性とその自分の力と学習目標を明確にししながら、実践における自分自身のコンピテンスの程度と有効性を正確に評価する
5. 自己の知識や技能のレベル向上のために積極的に取り組む
6. ソーシャルワーク実践における多様性に関連した課題を現場の実習指導者と互いに討議する
7. 学生の実習とその学習に影響を与えている各種の力関係を討論する、という現場の実習指導者の求めに応じる（例えば、現場の実習指導者と学生との関係性、文化的、反人種的实践、ヒエラルヒーについて）

H. 効果的コミュニケーション技能（ミクロ）
1. 書く技能
<ul style="list-style-type: none"> 1) 明快で簡潔な記録を書く 2) 記録の提出期限を守る 3) 記録を書く際、実習指導者の指導等に従う
2. 発表する技能（会議、ケース検討会、現場の実習指導者とのケースレビュー、研修、地域での行事、その他）
<ul style="list-style-type: none"> 1) プレゼンテーションの目的とその成果について、予め明確にする 2) プレゼンテーションする内容に優先順位をつける 3) 必要な情報に的をしぼる 4) 実習指導者等からの質問に効果的に対応する（正確に聴き、自信を持って対応し、明確に答え、そして質問の妥当性を評価する） 5) グループ／チームに対して情報を提示し、最大の効果が発揮できるように議題を伝える
3. A 話す技術／明確化・協働
<ul style="list-style-type: none"> 1) 言語的メッセージを的確に理解する 3) 評価的でない言葉で行動を描写する 4) クライアントに暖かく接する 6) クライアントを受け入れていることを言語的に表現する 7) クライアントの感情に適切に応答する 8) クライアントの行動に適切に応答する 9) クライアントの考え方に適切に応答する 10) クライアントの現実を踏まえ、励まし、支持する 11) クライアントや状況についての肯定的な情報に適切に応答する 12) 十分な時間をかけ、適切なペースで面接を行う（日常場面でクライアントに接する場合を含む） 13) クライアントの関心や問題について適切な言葉を使用する 14) クライアントが理解しやすい適切な言葉を使用する 15) 聴くことと話すことを明確にわかる 16) 情報を探索するときに、内容と過程があきらかになるような、焦点が絞られた適切な質問を行う
3. B 話す技術／具体性
<ul style="list-style-type: none"> 1) 曖昧で一般的な表現から、重要な情報を明確にする 2) 理解しやすいように複雑で大きな問題を細分化する
3. C 話す技術／探求・指示
<ul style="list-style-type: none"> 1) 状況に関連していても、クライアントが言語化しない重要な情報や感受性、感情を調べる 2) 話された内容から、隠されたあるいは根底にある主題を明確化する 3) 指示されたデータから重要な葛藤やアンビバレントな感情を導きだし、それらを明確化する 4) 話し合っている領域が脅威と感じられるか、あるいは微妙な性質を持っているかどうかの手がかりを感じ取る 5) クライアントの準備とその状況の緊急性に応じた探求のペースを考える

3. D 話す技術／今後の展開
1) クライアントの成長を阻害するような個別的、システムの、あるいは構造的過程を明確化する 2) 異なった問題（認知的、行動的、感情的）の各種の側面とそれらの相互関連を導き出す 3) その問題を理解する新たな方法を提起する
3. D 話す技術／挑戦のための障害の除去
1) (特に人種的な要因を考慮しながら) クライアントの行動やクライアント・システムがその問題に影響している理由を述べる 2) 敬意と理解が伝わる態度でフィードバックをする 3) クライアントやシステムの問題に関する新たな見方ができるように、情報を提供したり、修正する 4) 面接において、クライアントの不適切な行動に対処するが、面接中の様々なクライアントの行動を受け入れ、認める 5) 他の選択肢があることを認めようとし、ないことを明らかにし、クライアントにその事実と直面させる 6) 民族文化的な問題を提示しながら、適切にクライアント・システムに対応する 7) クライアント・システムが変わることに対する外部からの抵抗に注意する

第2章 補足資料2

インタビュー調査結果 (BEI)

4 実習生のコンピテンシー	
	Q「実習生として必要だとあなたが考えられる特性とか知識、技能、能力というのはどのようなものですか？」(なるべく具体的に)
1	・学校で学んでいる児童福祉の理解、現在の問題点や現象の理解
2	・聞く力、謙虚さ
3	・行動力(失敗してもやってみるぐらいの意欲)
4	・考える力
5	・考えて人に伝えられる力、言葉にする力
6	・意思表示をきちんとできる(困ったことも伝えられる)
7	・明るい、優しい
8	・強さも必要
9	・遊べる力のある人
10	・おやつ作りができる
11	・最低限の家事、掃除の意識
12	・G.W、レクリエーション活動に指導力のある人
13	・ユーモア
14	・自己アピールの強い人、遠慮しない人、印象づける人、リアクションのとれる人
15	・人とかかわる上で、どういう人の前で緊張するか、リラックスできるかを体験上分かっている
16	・子どもの世界の今の現実はどういう情報があるか、事前学習として関心をもってのこと。
17	・関心を持ったら、児童福祉施設とは何かを学ぶ。
18	・知識だけが先行する、わかったふりをすることが弊害になることもあり、実習の中だけで修得するというよりも、その後に学ぶべきことを知ることの方も大事。実習の終了が終着点でも完了でもない。
19	・協調性がない人は困る。いつも自分の主張が多く、他者が見られない。職員も同様の面がある。
20	・物事に真摯な取り組みが出来る。
21	・頭で勝負よりも、動いて考える。
22	・周囲を見られる人。そういう気持ちの余裕のある人。
23	・その人自身のゆとり(息抜きができる)がある。
24	・TPOが原則的に備わっている。
25	困る態度・はっきり言いすぎる。ここには来たくなかったとか等
26	・マイペース過ぎる(施設の時間の流れを学ぶよりまず自分中心)
27	・単位できていることがみえみえ。
28	・時間外のことを好まない
29	・部活が大事
30	・立ち回りがうまい
31	・自分への気付きを持てる。
32	・キャパシティ、柔軟性、弾力性についてはケースにより異なる。
33	・「自分をそのまま出してみて」と伝え、積極的になれる人⇒何か支障があればフォローする。
34	・長い月日の利用者とのかわりを知る。
35	・教員側の実習選択、教員の担当違い、学生に適した実習先についても考慮の必要あり。
36	・性格が素直
37	・基礎的な学習が出来ている人(施設に関する制度、歴史、対象者像)
38	・吸収力が高い
39	・最低の一般教養
40	・対人関係を持てる社会性のある人(社会経験のある学生は安心)
41	・社会福祉士たるもの広い学識がある⇒関連知識、心理学、老年学、回想法、経済学、統計学
42	・自分なりの問題意識を持ち、それを実習中の各種体験を通じて深めていく力。これは明確でなく、直感的なレベルでもかまわない。
43	・体験を自分なりに受け止める感受性が豊かであり、その体験を解釈し自らの行動につなげていくことのできる能力。
44	・一般的なレベルでのものごとを理解する力。
45	・葛藤を伴ったとしても、現実の体験を処理(伝える、考える、自らの言動を変える)することのできる能力。
46	自分の思いを鮮明に出せること。
47	・目的意識を持って実習に望んでいること
48	・報告、連絡、相談が身についていること
49	・聞き上手、学び上手が、自ずと謙虚な姿勢、挨拶や返事が良くなることにつながる
50	・状況に応じてメモをとり、同じことを何度も繰り返さないよう積極的に取り組む姿勢が大切
51	・注意されたことがどうゆうことなのか洞察する能力

4 実習生のコンピテンシー	
52	・一日の実習をしっかり反省、感想、指導を受けたこと、疑問点と区分けしてまとめられる能力
53	・失敗を恐れず、それを成果につなげる力が大切
54	失敗をしてもそこから学ぶことができること ・社会性、基本的マナー
55	老人施設ということもあり、職員も利用者も実習生に一般常識的マナーがもっと必要と考えて
56	あいさつの仕方などを身につけることが必要
57	基本的マナーが出来ていると、利用者や職員との関係作りがうまくいきやすい。 ・自然な笑顔
58	作り笑いではない自然な笑顔、明るさ。
59	経済性、経済感覚、経営感覚ともいえるかもしれない
60	介護保険になり、介護保険施設でほとんども「経済」を考える力量が必要となる。安易な批判をする学生がいるが、この経済でどのようにすればよくなるのか、という視点がほしい。 ・面接技術
61	コミュニケーション技術
62	言葉にでない相手の気持ちを気づく能力(特養は痴呆や言語障害などにより言語でコミュニケーションとりにくい利用者がふえている。)
63	言葉に出ないニーズに気づく(言葉として訴えるものより、言葉に出ないニーズの方が多い) ・多面的に見て、トータルで判断する力
64	独り善がりにならない。別の視点で見る。 ・意欲、積極性
65	社会福祉士実習生の場合、介護福祉士実習生と比較して、何をしたいのかはっきりせず、目的意識が薄い傾向がある。
66	したがって、社会人入学などのモチベーションの高い学生の方が優秀な学生にみえてしま
67	○ 人間関係をつくる能力 ①相手の話を聞ける、そして相手を理解する能力。相手の言いたいことを受け止められる能力。相手の側に立つことのできる能力
68	②自分の感情に気づける・大切にできる・表現できること職員から、その時にどう感じたかを投げかけている。自分の感情を出せずに泣いてしまったり、体調を崩してしまうことがある。自分を出せなければ、相手を受け止めることもできないと考えられる。実習生も辛いが、職員側からのフォローも大変になってしまう。 ○ 健康的な心身
69	「泣いても、笑っても、文句を言っても良い」ただし、毎日泣いてしまうのはどうか？精神的な強さが必要。体調の自己管理も求められる。 ○ 常識的行動
70	①職員・入所者とあいさつを自然にする。
71	②聞く態度。姿勢やあくびなどで相手に不快感を与えた場合は注意をしている。
72	③気配り。度を過ぎてはいけない。
73	④危険回避 ○ 積極的に学ぼうとする姿勢
74	①職員の言ったことをメモして、実習ノートにまとめる。
75	②疑問を職員に聞く。
76	③実習中に希望するメニューを自分から職員に提示できる。 ○ 柔軟性
77	自分が学んできたことと、実際に現場で起こることのギャップについてそのギャップに気づいた自分を大切にしながら、そのケースについて、自由に自分の枠を広げられること。(柔軟 ○ 気づき・視野の広さ
78	それまでの経験と学んだことの分野の広さ、深さに関わると考えている。たとえば、家族や友人との関係やボランティア参加などによる人間関係の幅の広さ。
79	①行事に参加し「子どもの笑顔が見られて、楽しかった」で終わってしまうか、行事を行なっている施設側の意図まで考察できるか、ということ。
80	②スーパービジョンの内容や、会議の意義について考察することができる。職員間のアドバイスについて、そこから活性化が行なわれていることまで考えることのできた学生がいた。 ○ 結果をある程度予測することができる能力
81	ある出来事の因果関係と結果を予測できる能力。
82	①公園で子どもたちが柵を越えて遊んでいた。「秘密基地だ」ということで職員に伝えないように子どもたちに頼まれた。しかし、危険が無いかを心配し、職員に確認してきた学生がい
83	②子ども同士のないしよ話を実習生がこっそりと聞いていて、職員に内容を伝えた。そのことで問題が表面化し、職員間で、問題解決の為に話し合うことができた。 ○ 実習生としての立場と役割をわきまえていること
84	①積極的なことは良いのだが、職員の計画などを無視して一人で走り過ぎてしまうのは困る。周囲を見て行動する大切さが必要。
85	②子どもとの関係を作りすぎてしまう、というのは実習生としての枠を越えてしまっている。実習生と入所者という枠を越え友人関係を作ってしまう。(電話番号の交換など)

第2章 補足資料3